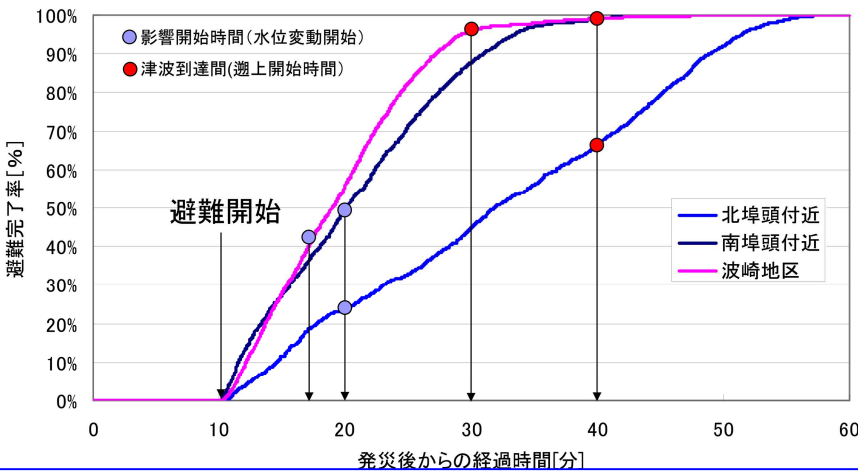


【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号	D-20-1																																
事業名	津波避難計画シミュレーション事業																																
事業費	3,885 千円(国費：2,590 千円)																																
事業期間	平成 24 年～平成 24 年																																
事業目的・事業地区(必要に応じ、別紙として地図を添付)	<p>神栖市は周囲が海や川に囲まれているうえ、全体的に高台のない平坦な地形であり、津波からの避難が困難な地域であることから、市独自の避難計画シミュレーションを行い、住民の安全確保を図るものである。</p> <p>対象地区は、平成 24 年 8 月に茨城県が公表した津波浸水想定図により浸水被害が広範な 3 地域（北埠頭、南埠頭、波崎地区）とした。</p>																																
事業結果	<p>①避難シナリオ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浸水想定：茨城県津波浸水想定（平成 24 年 8 月公表） ・発災時：夜間 ・対象地区：3 地区（北埠頭、南埠頭、波崎地区） ・避難開始：発災後 10 分後 ・避難者：H22 国勢調査の統計データ ・避難手段：徒歩（歩行速度 0.74m/s） ・目的地：津波浸水想定区域の外側 <p>■避難シミュレーション結果のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シミュレーション上は辛うじて避難はできる結果となった。 ・しかし、影響開始時間や津波到達時間を目標時間として設定した場合、津波浸水想定区域より外側に避難を完了させる割合は低い。 ・より安全により速やかに避難するためには、的確な避難経路の選択や避難路の安全性の確保といった課題が残されている。  <table border="1"> <caption>避難シミュレーション結果のまとめのグラフのデータ</caption> <thead> <tr> <th>経過時間 [分]</th> <th>北埠頭付近 [%]</th> <th>南埠頭付近 [%]</th> <th>波崎地区 [%]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>10</td> <td>15</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>25</td> <td>40</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>45</td> <td>75</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>40</td> <td>70</td> <td>95</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>60</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	経過時間 [分]	北埠頭付近 [%]	南埠頭付近 [%]	波崎地区 [%]	0	0	0	0	10	0	0	0	15	10	15	25	20	25	40	55	30	45	75	95	40	70	95	100	60	100	100	100
経過時間 [分]	北埠頭付近 [%]	南埠頭付近 [%]	波崎地区 [%]																														
0	0	0	0																														
10	0	0	0																														
15	10	15	25																														
20	25	40	55																														
30	45	75	95																														
40	70	95	100																														
60	100	100	100																														

事業の実績に関する評価

①事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価

津波シミュレーションを実施した結果、津波が海岸に到達し、遡上を開始してからも避難を続けることで被災者はいない結果となったが、海面の影響開始時間や海岸への津波到達時間を避難完了とする目標時間として設定した場合、浸水想定区域より外側に避難を完了させる割合は低い。

この結果に基づき、防潮堤の整備の要請や避難誘導看板の設置、津波避難ビルの指定を行うことができた。

②コストに関する調査・分析・評価

茨城県が作成した浸水想定区域を使用することで、コストを削減することができた。

③事業手法に関する調査・分析・評価

茨城県が作成した浸水想定区域を用いるとともに、津波シミュレーションのシナリオを検討する際には学識者として筑波大学教授の意見も取り入れ、より詳細な計画を作成することができた。

事業担当部局

生活環境部 防災安全課 電話番号：0299-90-1126